水稲営農だより

令和６年第３号[5月２日発行]
ＪＡつがる弘前
東地区営農係

１．育苗中期～後期のポイント

（１）苗は播種後２週間頃に種もみの養分を使い切り、根から吸収する養分のみで体を維持し始めますが、生育が不安定になりやすくなります。育苗期間中で最も温度管理に気を使い、苗にストレスをかけないようにしましょう！（1.5 葉期～3.0 葉期まで：日中 25℃以上にならないように、夜間は 5℃以下とならないように管理をしましょう）

（２）苗代は雨が多くなると水分過多になりがちです。そのため、排水不良にならないよう排水路を整備しておきましょう！また、ハウスは温度が上がりやすいことから、苗箱の水分をこまめにチェックし乾燥しすぎないよう注意しましょう！

（３）田植え５日頃前からハウスや苗代のビニールを日中は全面開放し、夜間は霜が降りる時以外は上部のみ覆い、両裾は空けて苗を外気にならしましょう。

2. 田植えのポイント

（１）田植えは天気の良く暖かい日を選んで植えることにより、活着が早く分けつがしやすくなります。
寒い日が続きそうな日に田植えをすると代枯れの発生、活着の遅れ、養分の消耗により分けつが抑制され、茎数の確保が飼育くなります。

（２）中苗で３～5本植え、深さは３ｃｍ程度で深植えにならないように注意しましょう。
深植えすると活着や分けつの発生が抑制されます。

3. 田植え～活着期の水管理

（１）暖かい日は2～3cm程度の浅水で、日中の水温と地温の上昇を図り、活着及び初期生育の促進に努めましょう。

（２）寒い日は4～5cmの苗が冠水しない程度のやや深水で、苗を保護しましょう。

・寒い日の深水管理は、水温が気温より高くなり、養分の消耗を抑える働きがあります。

・風が強い日の深水管理は、葉からの水分蒸散を抑え葉の枯れ上がりを少なくする働きがあります。

・暖かい日に長期間の深水管理をすると、分けつを抑制する恐れがあるので控えましょう。

3. 初期病害虫防除（箱処理剤）

薬　剤　名	使用量		使用時期(田植え)	イネドロオイムシ	イネミズゾウムシ	いもち病
	箱当り	１袋当り				
パダン(粒)	80ｇ	37枚分	当日	○	○	―
ブイゲットバイソン（粒）	50ｇ	20枚分	緑化期～当日	○	○	○

イネドロオイムシ・イネミズゾウムシの発生が多く見られ、気になる場合は・・・5月下旬～6月上旬になげこみトレボン（稲５葉期以降10a当たり4～6個）を散布してください。

4. 除草剤の散布

一発処理体系

田植え

４成分
- ●シンズイＺ１ｷﾛ粒剤
  - ― 田植直後 ～30 日以内
- ●シンズイフロアブル
  - ― 田植直後 ～30 日以内
- ●シンズイＺジャンボ
  - ― 田植後３日～30 日以内
- ●シンズイＺ豆つぶ 250
  - ― 田植後３日～30 日以内

３成分
- ●ディオーレ顆粒
  - ― 田植後３日～30 日以内

３成分
- ●ゼータタイガー1 キロ粒剤
  - ― 田植直後～ 30 日以内
- ●ゼータタイガージャンボ
  - ― 田植後３日～30 日以内
- ●ゼータタイガーフロアブル
  - ― 田植後３日～30 日以内

初期剤・中期剤処理体系

田植え

- ●エリジャン乳剤
- ●ソルネット粒剤
  - （ノビエ 1.0 葉期まで）
  - (田植７日前又は田植直後～5 日後まで)

田植後 14 日

- ●セカンドショットＳｼﾞｬﾝﾎﾞ ＭＸ（ノビエ 3.5 葉期まで）
- ●レブラス１キロ粒剤（ノビエ 4.0 葉期まで）
- ●ツイゲキ豆つぶ 250（ノビエ 4.0 葉期まで）

※青天の霹靂は、ゼータタイガーのみ使用可能です。

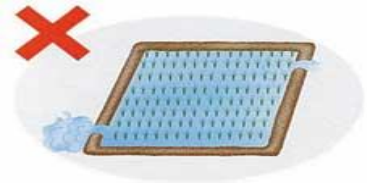
一発処理体系では、下記の剤も選択できます。
（４成分）トップガン
１ｷﾛ粒剤・フロアブル・ジャンボがあります。

（３成分）ベッカク
１ｷﾛ粒剤・豆つぶ・ジャンボがあります。

除草剤をうまく効かせるコツ

- 除草剤は、早めの散布を。（代掻きから10日以内を目安に使用期間内で早めに散布しましょう。）
- 毎年雑草が多い所では、初期剤・中期剤の体系処理を行いましょう。
- １日に水位が2㎝以上低下するような水もちが悪い所では粒剤を使用するようにしましょう。
- 除草剤の効果を安定さるためには、やや深めの水位5cm以上を最低3日間は保ち、散布後７日間は落水やかけ流しは行わないようにしましょう。

●整地、代かきはていねいに


●散布後の落水、かけ流しはダメ！

ヒエ

ホタルイ

オモダカ

コナギ